



第8回食育活動表彰
農林水産大臣賞

教育関係者・事業者部門【農林漁業者等の部】

農林水産大臣賞

サスティナ鶴岡

[山形県：活動期間3年]

Tsuruokaフードハブキッチンおよびサスティナ学校

郷土料理や行事食などを食べる機会が 減り食文化の継承に危機感

昨今では、調理において手軽さが重要視され、手の込んだ郷土料理や行事食などを家庭で食べる機会が減少、孤食が増加したことから、郷土食文化の継承が危機に陥っています。この課題を解決するため、食材生産者および周囲の料理人を中心に「サスティナ鶴岡」を設立しました。「食を通じて子どもたちの未来を育む」ことを目的に掲げ、自活力を育む、体験の貧困を減らす、郷土の文化食と食材の豊かさを伝承する、将来農業や漁業に携わる人材を育成する、の4点をミッションとし、体験を通して「いただきます」「ごちそうさま」の心を育てながら活動しています。



特産の砂丘メロンを収穫



みんな楽しい
ジャガイモ堀り



郷土食“弁慶飯”を作ってみよう

「子どもたちの未来を育む」ことを目的 に食文化と食材の豊かさを伝承

鶴岡市内の小中高校の出前授業や大学生の卒論研究の受け入れ、また、地域のJA青年部、商工会議所青年部、青年会議所等の幅広い機関との連携で、食文化の伝承に努めています。子どもたちだけでなく、保護者も一緒に学び、体験を通して故郷の良さや豊かさを発見できる場を提供しています。



郷土食材“孟宗”堀り



堀りたて孟宗で孟宗ごはん



貴重な定置網漁業体験

食材生産のプロ(農家や漁師等)と 食材活用のプロ(料理人)がタッグ

当団体の最大の特徴はスタッフ構成です。食材生産のプロである農家や漁師と、食材活用のプロである料理人がタッグを組み、生産から調理まで一貫したハイレベルで多様な食農食育事業を提供しています。また、事業の継続のため、食産業企業に運営費用を協賛していただいたり、高校生、大学生にボランティアスタッフとして参加していただいたりと、地域一帯となって取り組んでいます。



「いただきます」命の授業



味噌から手作りのお味噌汁づくり



庄内といえばやっぱりお米



苗植え



この度は、私たちの活動を農林水産大臣賞にお選びいただき、大変光栄に思います。まだまだ活動年数は浅いですが、料理人と生産者、地域が一丸となって、これからもサスティナ鶴岡らしく、ユーモアと笑顔あふれる楽しい取組を沢山の皆さんにお届けできたらと思います。誠にありがとうございました。

サスティナ鶴岡 スタッフ一同



第8回食育活動表彰
消費・安全局長賞

教育関係者・事業者部門【農林漁業者等の部】

消費・安全局長賞

にしみの 西美濃農業協同組合 ふるさと隊

[岐阜県：活動期間23年]

地域の食農ボランティア「ふるさと隊」の食農教育活動

女性部会員が地域で始めた田植え体験 などのボランティア活動がきっかけ

JAにしみのの農家の女性部会員が地域で始めた田植え体験などのボランティア活動をきっかけに、小学校や保育園と関わりを持つようになり、食農ボランティア「ふるさと隊（ふるさとを思いやる気持ちも一緒に伝えたいと思い命名）」の発足に至りました。次世代を担う地域の子どもたちに向けて、私たちが作る米や大豆、野菜を使った食育とその食材を作る過程、食の根本を支える農業を組み合わせた食農教育活動を展開しています。



親子で苗植え大きく育てね！



身長よりも高いトウモロコシに
びっくり！

全国最多会員数のJA女性部内の ふるさと隊

全国最多会員数を誇るJA女性部内のふるさと隊は、管内での盛んな生産量に対し食料自給率の低い大豆を中心に、地域住民と協力して、栽培、収穫、加工の各過程の体験学習を提供しています。子どもたちと考える時間を大切にしながら、食と農を組み合わせた食農教育活動に取り組んでいます。今後も、管内の教育機関（小学校、中学校、高等学校、大学等）の年齢に合わせた持続的な食農教育活動や、新規ふるさと隊員の育成を通し、ふるさと隊の存続と拡大を目指していきます。



豆腐作りを体験…



上手にできました！



みんなで食べると美味しいね

食のあり方や農との関係を学び、いのち の大切さを感じてもらうことを目的に

子どもたちが食のあり方や農との関係を学び、いのちの尊さや大切さを感じられるよう、単発の収穫体験や調理実習ではなく、栽培、収穫、加工の各過程を取り入れた包括的な食農教育を行っています。農業の凄さや楽しさ、辛さまでも包み隠さず伝え、体験と気づきを学習に織り交ぜることで、子どもたちの「次もやりたい、学びたい」という気持ちを引き出しました。



リモートでの出前授業の様子



野菜の皮を使った染物体験



地域と食と農をつなぐ架け橋として活動してきたJAにしみの女性部「ふるさと隊」の取組が評価され、受賞できたことを大変うれしく思います。これからも力を合わせて、地域の皆さんに食と農、そしていのちの大切さを広め、「まめ（元気）」に安心して暮らせる地域づくりを目指してまいります。

西美濃農業協同組合 ふるさと隊一同



第8回食育活動表彰
消費・安全局長賞

教育関係者・事業者部門【農林漁業者等の部】

消費・安全局長賞

すずき よしあき
鈴木 芳昭

[千葉県：活動期間30年]

近隣幼稚園、小学校を対象とした農業体験。
中学校への出前授業、農業体験等。

「地域子ども達には市内で栽培した農産物を食べてもらいたい」がきっかけ

「地域子どもたちには市内で栽培した農産物を食べてもらいたい」という気持ちで開始した学校給食への農産物供給をきっかけに、地域の小学生たちが農業体験に来るようになり、活動が広がっていきました。学校給食を通して子どもたちに地場産食材の味を知ってもらおうと同時に、農業体験を通して作物を育てる喜びや苦労を伝えています。今後は、既存の活動の継続に加え、コロナ以前のように、農協観光や君津亀山青少年自然の家などとの連携を図り、収穫体験や農業体験などの拡充を目指しています。



枝豆収穫の様子



在来大豆「小糸在来®」を用いて、座学、実習、みそづくり及び発表会等の食育

活動は近隣にとどまらず、県外の教育機関とも連携して行っています。川崎市立川崎高等学校附属中学校との連携では、君津市に古くから伝わる在来大豆「小糸在来®」を用いて体系的な食農活動に取り組んでいます。座学、栽培収穫などの実習、収穫した大豆を用いたみそづくりおよび学習発表会など、年間を通して播種から加工までの全てを学ぶことができます。



小糸在来®についての授業



みそづくりの様子

君津市農業農村活性化協議会を設立し、組織的で継続的な食育活動に発展

学校給食への農産物供給、地域の農業体験受け入れを30年以上継続してきた中で、関係機関と共に君津市農業農村活性化協議会の設立に至りました。協議会の設立により、個人の活動だけでなく、関連機関とも連携した組織として継続的な活動にも取り組めるようになり、より幅広い地域、世代への食育推進に繋がりました。



大豆の播種の様子



この度は、栄えある賞をいただき感謝いたします。私は、地域子どもたちに地元の農産物を食べてもらいたい、農業の魅力を知ってもらいたいという思いから、学校給食へ野菜の供給や農業体験を行っています。今後も子どもたちへの農業体験、また、君津市の魅力を県内外の方に農業を通じて知っていただけるような活動を続けていきたいと思っています。ありがとうございました。

君津市農業農村活性化協議会
会長 鈴木 芳昭



第8回食育活動表彰
審査委員特別賞

教育関係者・事業者部門【農林漁業者等の部】

審査委員特別賞

JA糸島青年部

[福岡県：活動期間6年]

食育！コメンジャーズ・プロジェクト

糸島で生産される主要5品種のお米を モチーフにした「ご当地ヒーロー」

コメンジャーズとは、糸島で生産される主要5品種のお米をモチーフに、地元の米農家によってプロデュースされたご当地ヒーローです。「ヒーローの中身は農家である」というコンセプトのもとで農家自身が企画運営を行い、保育園や地元イベントに参加しています。持ち前のキャッチーさを活かし、子どもたちやその親、また、普段食と農に関心の低い若者をも農業に惹きつけることで、後継者不足などの課題を解消し、持続可能な地域農業に繋げていきます。



コメンジャーズ

「農家はヒーロー」を合言葉。キャッチ コピーは「ちからいっぱいメシば食え」

「農家はヒーロー」を合言葉に、また、「ちからいっぱいメシば食え」をキャッチコピーに、頑張っている若手農家の情熱を発信しています。子どもたちに食と農の大切さを楽しく伝え、将来農家（ヒーロー）になってほしいという願いや、自分たちが農業者として誇りを持ち、胸を張って農業に取り組んでいくという思いをコメンジャーズに託し、活動しています。



園児たちの前で

コメンジャー(農家)が自ら育てた農産物を 提供することで安心安全を感じてもらう

コメンジャー（農家）が自ら育てた農産物を提供することで安心安全を保障しています。また、地域住民を農業の現場に招いて直接交流することで、農業を身近に感じてもらえるよう努めています。



田植え機に乗るコメンジャーズ



コメンジャーズと一緒に農作業



赤：ヒノヒカリ
黄：ヤマダニシキ
青：ユメツクシ
桃：ミルキークイーン
緑：ニコマル

この度は、私たちが取り組む食育活動を高く評価していただき、深く感謝申し上げます。地域を担う農業者として、食と農に携わる責任を形にし、恩返しのつもりで活動を行ってきました。これからも様々な形でチャレンジを続け、後進にも想いを伝えながら、長く愛される農業の在り方を模索していきたいと思っています。

JA糸島青年部一同